



Daiwa House®
大和ハウスグループ

インパクト投資に関する勉強会 フェーズ2 第3回

インパクト指標の活用に向けた当社グループの課題

大和ハウスグループの創り出したい社会と私たちの役割

2022年9月12日

大和ハウス工業株式会社
経営管理本部IR室 関 沙織

1. 大和ハウスグループについて

2. “将来の夢”（パーカス）の策定について

3. インパクト指標の活用に向けての取組みと課題



創業者・石橋信夫（1921～2003年）

何をしたら儲かるかではなく、
どういう商品が、どういう事業が
世の中のためになるかを考えろ。
会社は社会の公器やからな。



創業商品「パイプハウス」 戸建住宅



賃貸住宅



ロードサイド店舗



再生可能エネルギー発電所 海外マンション



3時間で建つ勉強部屋
「ミゼットハウス」



民間初の大規模開発団地



リゾートホテル



ホームセンター



大型物流施設



都市型ホテル

1955

1960

1970

1980

1990

2000

2010

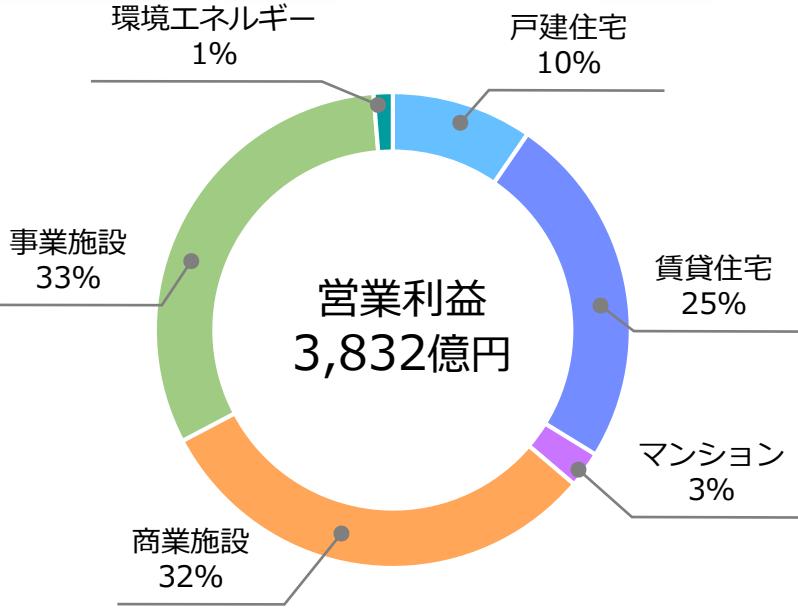
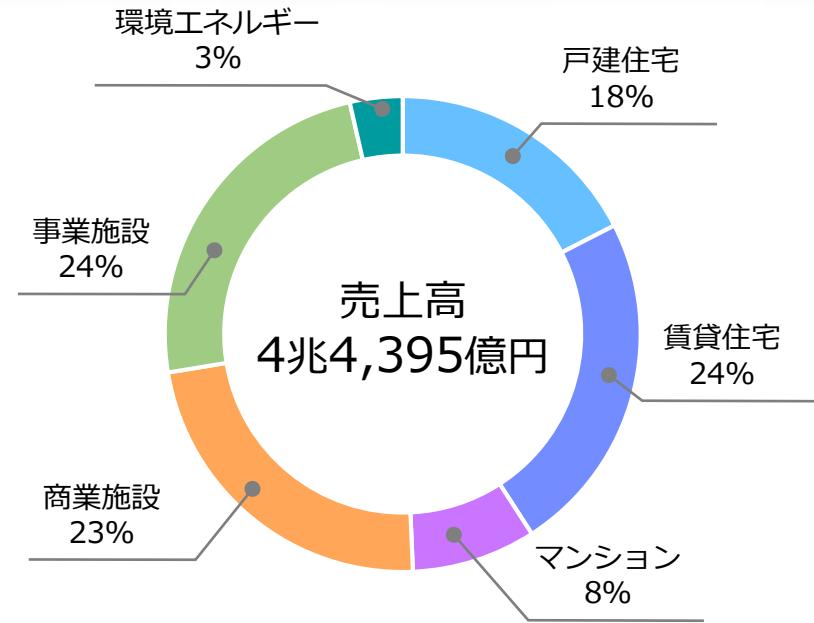
2020



創業者精神を原点に事業を多角化

セグメント別売上高・営業利益構成比（2022年3月期）

Daiwa House Group®



※売上高は、外部顧客に対する売上高を表示しています。合計値にはその他事業・調整額が含まれていますが、グラフ上では表示していないため、各セグメント構成比の合計値は100%にはなりません。

© 2022 Daiwa House Industry Co., Ltd. All rights reserved.

1. 大和ハウスグループについて

2. “将来の夢”（パーパス）の策定について

3. インパクト指標の活用に向けての取組みと課題

生きる歓びを分かち合える世界の実現に向けて、
再生と循環の社会インフラと生活文化を創造する。

生きる歓びを、未来の景色に。



“将来の夢”が人や企業を成長させる

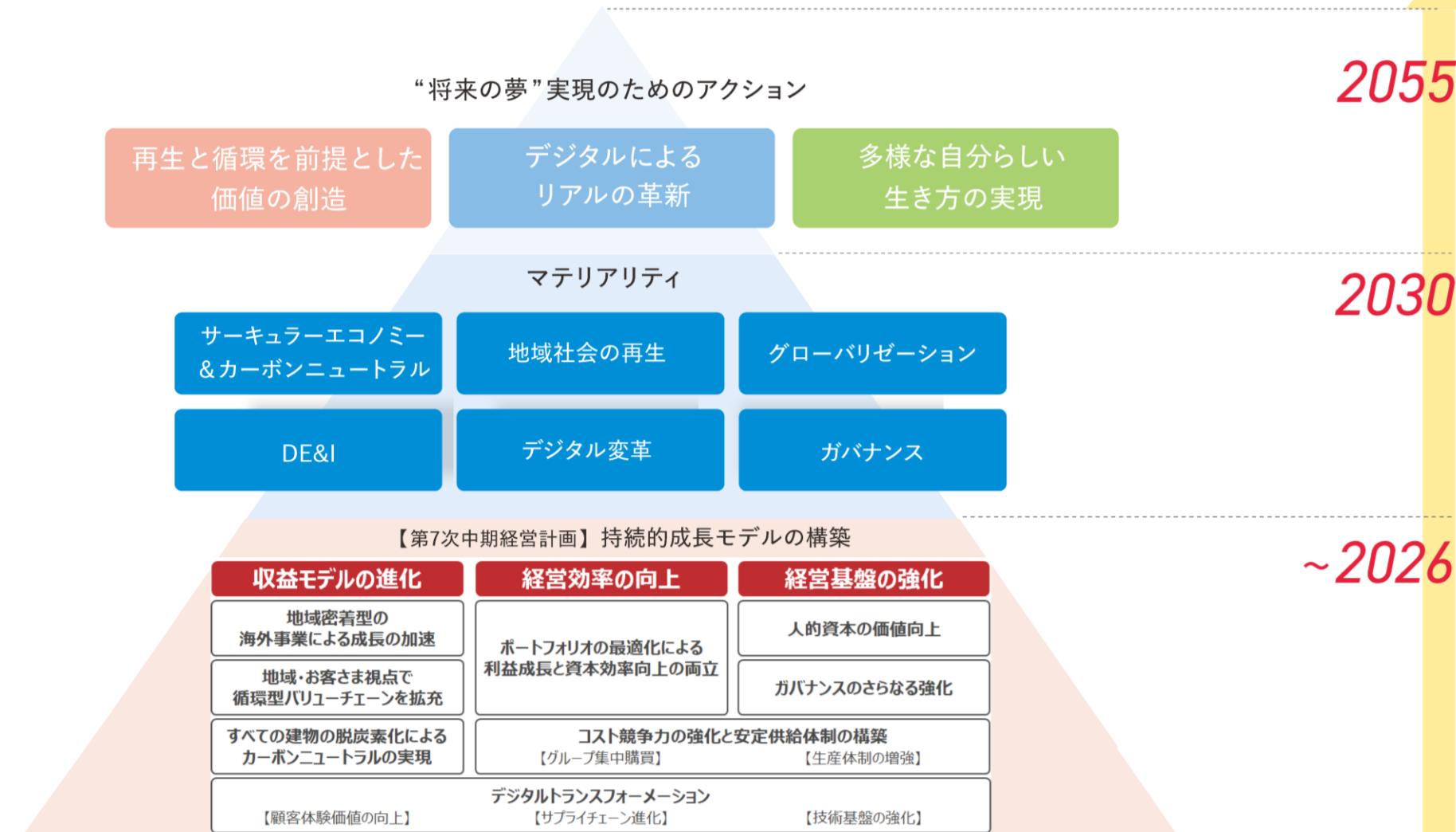
新しい時代を生き抜くためには、常に積極的であること、
“将来の大きな夢”を持つことが大切であると説き、私たちは
「2055年、創業100周年に売上高10兆円の企業グループへ」
という創業者の壮大な夢を受け継ぎました。

永続的に社会に必要とされる企業として、従業員ひとり一人が
“将来の夢”を持ち、その夢をひとつ一つ実現していくことで、
大きな貢献を果たせると考えています。

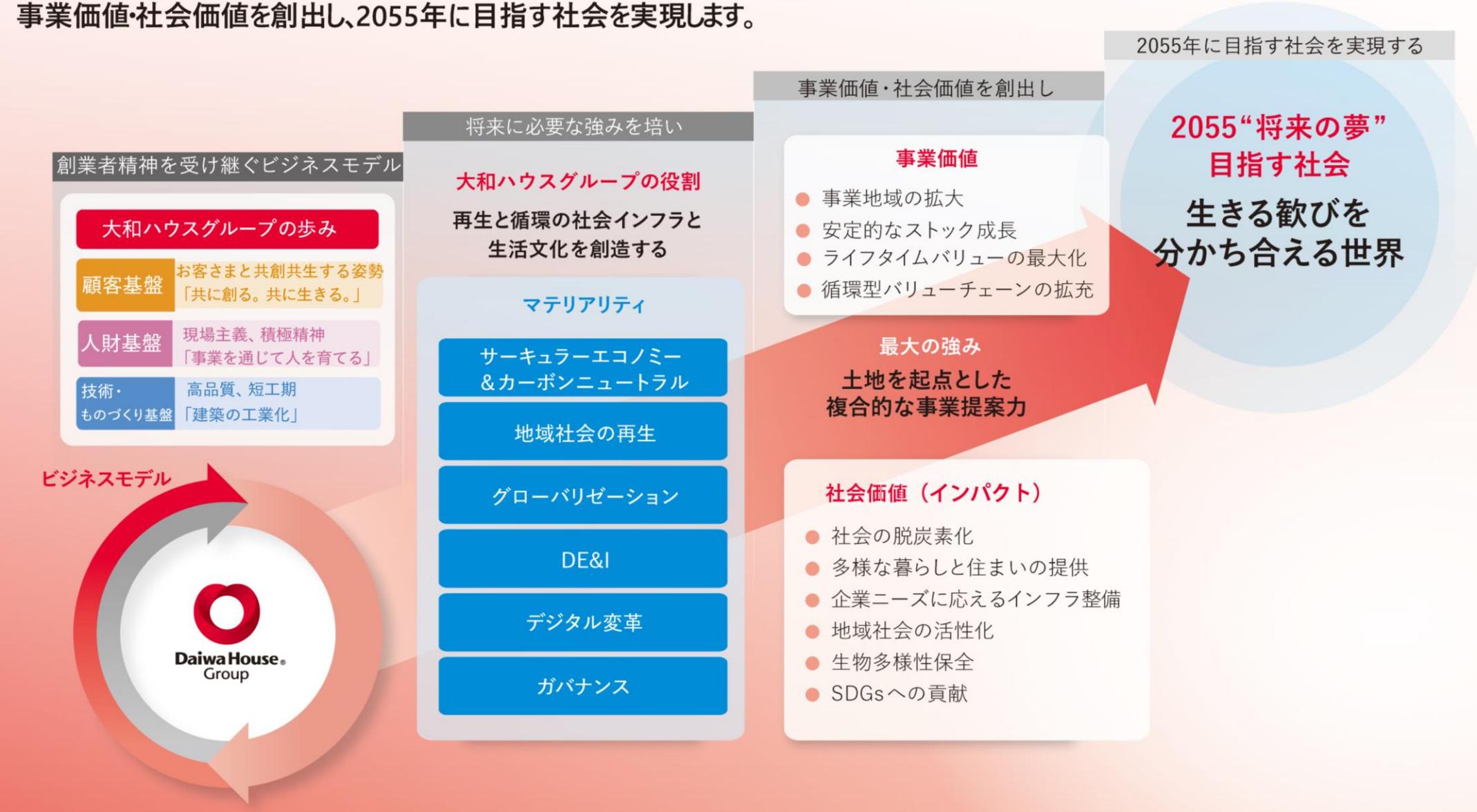


大和ハウスグループの“将来の夢”

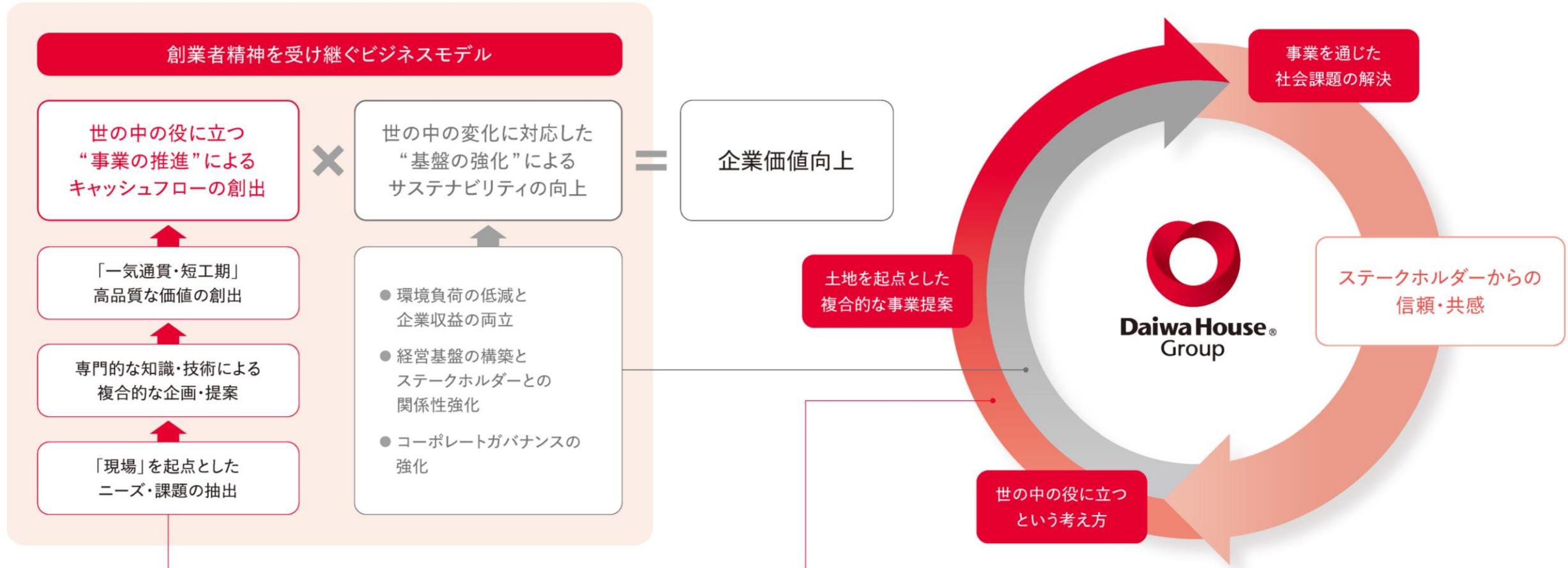
「生きる歡びを分かち合える世界の実現に向けて、再生と循環の社会インフラと生活文化を創造する」



創業者精神を受け継ぐビジネスモデルで、人的資本への投資を進めながら、将来に必要な強みを培い、事業価値・社会価値を創出し、2055年に目指す社会を実現します。



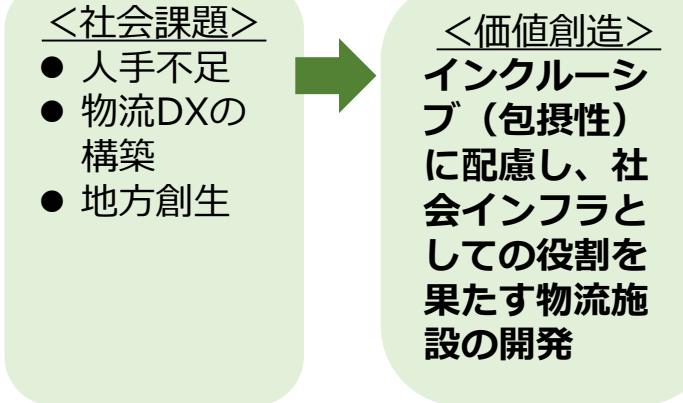
現場起点で課題を抽出し、建築・不動産に関する豊富な知識と幅広い事業領域を活かした提案を行い、高品質なものづくりでニーズを実現する“事業の推進”と、環境・社会・ガバナンス対応による“基盤の強化”を両立するビジネスモデルで価値を創出し、世の中の課題解決へ導いています。



1. 大和ハウスグループについて

2. “将来の夢”（パーカス）の策定について

3. インパクト指標の活用に向けての取組みと課題



<アウトプット> 物流施設の価値の最大化

- 物流施設開発件数・面積
(累計) 333件 約1,200万m²
- 6次中計 開発物件売却高
(3か年実績) 5,731億円

- ★その他、想定する定量指標：
- ・ 働く場の提供・保育所の併設
 - ・ 災害時の避難場所（災害時の地域の市民生活支援に関する協定締結数）
 - ・ 物流DXによる自動化・省人化のための協業案件数やロボット導入数
 - ・ 太陽光発電搭載件数・発電出力量

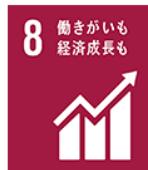
<アウトカム> 雇用の創出と、生活サービス機能や避難場所としての機能の質の向上

- ★想定する定量指標：
- ・ EC化率の進展
 - ・ 施設内の労働時間や働く人の増減
 - ・ 施設利用者数・保育所利用者数の増減
 - ・ 取引先企業との開発・実証実験数や、スタートアップ企業との協業数
 - ・ CO₂削減率

<インパクト>

- 社会の脱炭素化
- 企業ニーズにこたえるインフラ整備
 - 災害にも強く持続可能な事業活動の実現
- 地域社会の活性化
 - 安心して住み続けられるまちづくり、包摶的な地域コミュニティの実現
- SDGsへの貢献

- ★想定する定量指標：
- ・ 地域企業・住民・働く人の満足度（生きる歓びの数）
 - ・ 施設内で働く人の年齢層の幅広さ（働く歓びの数）
 - ・ 災害時からの復興日数



生きる歓びを分かち合える世界の実現

- インパクト指標の開示に向けて
 - ① 全社の社会インパクトを特定するにあたり、各事業ごとの社会インパクトに関する議論
⇒ ・社会インパクトの考え方についての現場レベルでの浸透。（パーカス・マテリアリティの浸透を推進中）
 - ② 具体的施策や指標の開示
⇒ ・一部のマテリアリティについては、具体的施策や指標を特定中
 - ・事業戦略との紐づけが重要であると認識
 - ・特定に向けた社内体制整備（外部パートナー、事業部門との連携整備など）
 - ・具体的な施策・指標・対象期間を特定後、ようやく現場に落とし込んでいくフェーズへ。
- ネガティブ・インパクトに関する議論
⇒ ・ダブルマテリアリティの観点から、企業が環境・社会に与える影響について、ポジティブ・ネガティブの両面から議論する必要がある。特にネガティブ・インパクトについては、その対応策も併せて議論する必要がある。
- 投資家との対話と、対話を通じていただいた意見・要望を踏まえたブラッシュアップ



Daiwa House ®

大和ハウスグループ

www.daiwahouse.co.jp

ありがとうございました。